

エコ・あぐり・タウン くねっぴ 応援団だより

平成30年3月16日発行 NO.50

訓子府町の「ふるさと応援団」にご参加いただき、ありがとうございます。
みなさまと訓子府町を結び便りにできればと考えております。

訓小リコーダー 全国大会出場へ

1月10日に札幌市で開かれた第32回全道リコーダーコンテストに出場した訓子府小学校スクールバンドが、金賞と特別賞として北海道リコーダー教育研究賞を獲得。同時に8年連続の全国大会へ出場します。全国大会は、3月25日に東京都で開かれます。

訓小は、合奏の部に出場し「ルーマニア民謡によるディベルティメント」を演奏。審査員から高い評価を受けました。



高知県物産展 津野町コーナーにぎわう

高知県の観光と物産展が、1月10日から15日まで北見市で開かれました。姉妹町の高知県・津野町からも多数の特産品が販売され、たくさんの来場者でにぎわいました。

「姉妹都市コーナー」で津野町産のショウガやサツマイモ、サトイモ、煎茶、高知県の地鶏「土佐ジロー」の卵などが販売されたほか、津野町産オリジナルスイーツの「満天の星大福」や「きなこよもぎ大福」、「ほうじ茶生チョコレート」なども販売されました。



北海道訓子府高等学校卒業式と L S北見カーリング銅メダル受賞を重ねて



今年は地元訓子府高校が創立されて70年の節目の年になります。3月1日、第66回卒業式が行われました。平成27年に入学した卒業生は入学時24名、平成21年から学年1クラスになってから最も少ない入学数でした。

私は卒業式に来賓として招かれ、晴れて卒業式を迎えた15名の卒業生に絶賛の拍手を送りました。それは100パーセントの進学や就職を決める伝統を守り続けたことや、街頭での交通安全呼びかけ、高齢者との交流など地域と共に歩んできた輝かしい高校生活がまぶしく感じたからです。

そんな素敵で前途洋々の彼らに今や国内や韓国のみならず、世界の人々の心を驚つかみにした平昌冬季五輪カーリング女子で銅メダルを獲得したL S北見の姿を重ねて祝辞を述べました。どんなに困難な状況でも「諦めない」、「笑顔」を絶やさぬ姿、仲間と共に「そだねー」の北海道弁を連発する彼女たちに共感が寄せられたのです。特にサードの吉田知那美選手が常呂町に凱旋した時に語った、ふる里、常呂への感謝の言葉を卒業生達に激励の言葉として送りました。

「正直、この町何も無いよね。小さいときはこの町にいても夢はかなわないと思っていました。でも今は、ここにいなかったらかなわなかったって思っています。」「みんなもたくさん夢があると思うけど、場所とか関係ない。大切な仲間がいたりとか、家族がいたりとか、どうしてもかなえたい夢があるとか…。この町でもかなえられると思います。」

ちなみに主将の本橋麻里選手とリードの吉田夕梨花選手は訓子府高校と同じく小規模校の常呂高校卒業生であることも紹介しました。

町長's Eye



成人式 振り袖など着飾り大人の仲間入り

平成30年訓子府町成人式が1月7日に町公民館で行われました。今年は男性34人、女性27人の合わせて61人が対象。



この日は、天候に恵まれ、新成人がスーツや振り袖などに身を包み、緊張した表情で会場に集まりました。

式典では、町民憲章を朗唱したあと、新成人を代表して伊田晃さんに記念品が贈呈され、坂井りいなさんが「成人となった自覚を持ち、成長していきます」と誓いの言葉を述べました。

交流パーティーでは、久しぶりに再会した友人たちと記念撮影をするなど、成人の第一歩を楽しく過ごしていました。

姉妹町・津野町からの交換留学生4人が訓子府の冬を満喫

訓子府町の姉妹町・高知県津野町から小学生4人の交換留学生と引率の津野町教育委員会教育長の久寿久美子さんが2月3日に来町しました。

児童たちは厳寒焼肉やさむさむまつりなどの行事、スケート学習などの冬のイベントを満喫。勉強や遊びを通じて交流を深め、たくさんの友達と思い出をつくり、8日に離町しました。



4Hクラブ 全国で「優秀賞」を受賞!

全国青年農業者会議が3月8日、9日に東京都で行われ、北海道青年農業者会議で最優秀賞を受賞した訓子府町4Hクラブが出場しました。

町4Hクラブは、プロジェクト発表の地域活動部門に出場し、「Welcome『しばれ』～土壌凍結と歩み続ける～」と題した土壌凍結についての研究を発表。見事、優秀賞である「農林水産省経営局長賞」を受賞しました。

プロジェクト発表者の南さんは「大勢の方の応援のおかげで全国大会に出場することができた。とても感謝しています」と感謝の気持ちを述べました。



繰り広げられた熱き戦い オホーツク玉入れ選手権大会

第16回オホーツク玉入れ選手権大会が2月11日に町公民館で開かれ、訓子府町内をはじめ北見市や置戸町、紋別市などからジュニア4チーム、一般18チームが参加しました。

身長よりはるかに高いバスケットめがけ、1チーム4人から6人の選手が100個の玉を投げ入れる速さを競い、会場内は熱気に包まれました。

一般の部では「紋別アクア」(紋別市)、また、ジュニアの部では「ベースボールJr」(訓子府町)がそれぞれ優勝しました。町内のチームでは、一般の部で5チーム、ジュニアの部で3チームが参加し、練習の成果を発揮しました。



二年間ありがとうございました

私事ではございますが、この3月末をもって姉妹町である津野町からの人事交流職員としての任期を終えるにあたって、この場をお借りして皆さまにお礼の言葉を申し上げます。

私が担当させていただいた2年の間、応援団の皆さまからは温かいお言葉やアドバイスをたくさんいただき、本当にありがとうございました。

4月から担当は代わりますが、今後とも訓子府町並びに応援団だより、そして姉妹町津野町をどうぞよろしくお願いいたします。

2年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

応援団だより担当：竹内 祥悟

